

平成25年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	阿南市立宝田小学校 <small>あなんしりつたからだしょうがっこう</small>
校長名	鎌田 二洋
所在地	阿南市宝田町久保田124番地
電話番号	0884-22-1134
参考URL	http://e-school.e-tokushima.or.jp/anand/es/takarada/html/htdocs/

2 研究課題

(1) 研究主題

人との関わりを通して、自己の生き方についての考えを深める児童の育成
～仲よく助け合う児童の育成～

(2) 設定理由

平成20年度の学習指導要領改訂において「第3章 道徳」の「第1 目標」に「自己の生き方についての考えを深め」という文言が加えられた。少子高齢化・情報化が進み、人間関係がますます希薄になってきている現状を考えると、まず人との関わりを通して自己の生き方を見つめさせる取組が重要であると考えた。

本校児童は、個々は素直で子どもらしいが、時として相手の気持ちや状況を深く考えずに行動してしまうことがある。また、集団生活をする上で必要な約束やきまりを守ろうとする意識も低い。こうしたことから、様々な人との関わりを通して日々の生活を見つめ直し、互いを認め合い助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要であると考え、本主題を設定した。

3 研究の概要及び特色

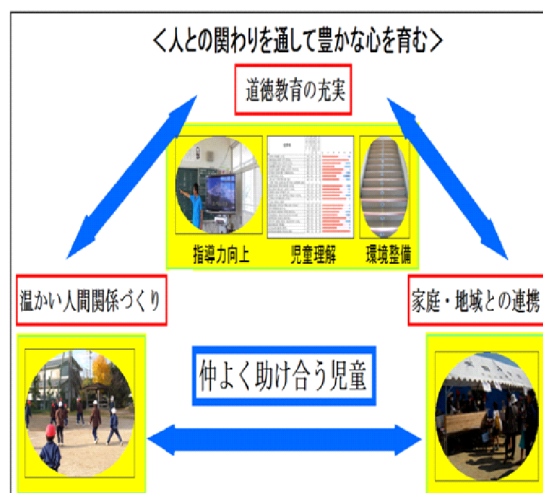
(1) 概要

①道徳教育の充実

本校ではこの研究主題に迫るために、次の3つに焦点を当てた。

- 1つ目は道徳教育を充実させること
- 2つ目は温かい人間関係をつくること
- 3つ目は家庭や地域と連携を図ること である。

まず、道徳教育を充実させるためには、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通しての指導を充実させることが大切であると考えた。また、温かい人間関係をつくるためには、集団生活の基盤となる約束やきまりを徹底することと仲間づくりの工夫をすることが大切だと考えた。さらに、学校や地域が共に取り組む道徳教育を工夫することで、家庭や地域社会との連携を図ろうと考えた。この3つは、それぞれが独立して実践されるものではなく、相関関係にあると考えた。右の図は、この関係を示したものである。



(2) 特色

① 道徳教育の充実

ア 児童理解

児童理解を深めるために、校内研修でKJ法を用いて本校児童の課題を明らかにした。教職員がまとめた本校児童の課題は

- 基本的な生活習慣
- 規範意識
- 思いやりの心

の3点である。

次に、児童全員と保護者を対象にアンケートを実施した。(兄弟姉妹がいる場合、児童一人ひとりについて、保護者から回答を得るようにした。)

これらをもとに教職員全員で児童理解を深めるとともに、保護者にはアンケートの集計結果を報告した。アンケートの集計結果は低中高別にグラフ化して児童玄関に掲示し、児童たち自身が、自分たちの在り方について考えられるようにした。

イ グループ別研究協議

グループ別研究協議では、本校では教職員が

- 授業研究グループ
- 道徳環境グループ
- 児童実態グループ

の3つのグループに分かれて研究を進め、育てたい児童像を明らかにし、それぞれの観点からアプローチしていった。

授業については、教師の指導力向上のため、校内授業研究を計画的に実施し、授業の改善を図った。例えば、子どもたちが興味をもって取り組めるように映像・写真・実話・具体物等の教材を工夫したり、ねらいにせまる発問について考えたりした。

道徳環境としては、道徳環境グループの発案により、校内の環境を整えた。例えば、掲示物や廊下・階段の通り方の表示、トイレトペーパーホルダーの作製などにより、道徳的習慣の形成を図った。

② 温かい人間関係づくり

ア 約束やきまりの徹底

みんなが気持ちよく暮らすために「チャイムを守る」「廊下・階段の通り方」「集合時の約束」「登下校の仕方」「遊具の使い方」など、基本的な約束やきまりを徹底した。

イ なかよし班活動

なかよし班活動では全児童を12班に分け、毎週金曜日に遊びを通してふれあう時間を設定した。本校児童の課題が明らかになったことにより、「めざす児童像」に近づけていくためにはどうすればよいかを話し合った。その結果、年度途中ではあったが、年間計画を見直して変更し、朝の活動の時間に全校児童がふれあえる場を設定したのである。児童は、班で話し合っ



なかよし集会(長縄)

遊びの内容を決め、この時間を楽しんでいる。

ウ あいさつ運動

児童会役員を中心として、毎朝あいさつ運動を行った。

エ ありがとうカード

「ありがとうカード」に児童が感謝の気持ちを書き、給食時の放送で人権委員会が紹介した。

③家庭・地域との連携

ア わいわいバザー祭り

わいわいバザー祭りでは保護者による模擬店やバザー等を行った。

イ セニヤクラブとの交流

セニヤクラブとの交流では、米作り・昔の遊び・グランドゴルフ等があり、温かい雰囲気の中で交流できた。

ウ 保育所・幼稚園・中学校との交流

保育所・幼稚園・中学校との交流では秋祭りや運動会に参加してもらったり、吹奏楽部による演奏会が行われたりした。

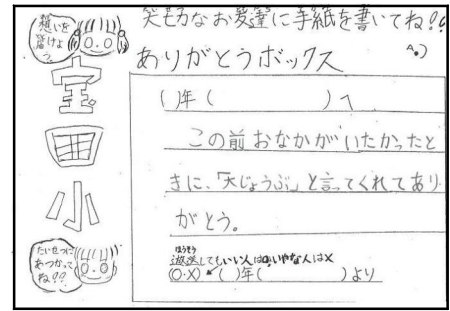
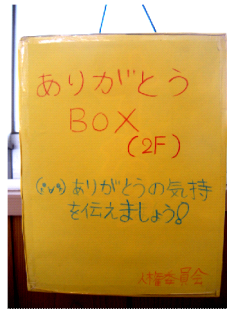
エ リーフレットの作成・配布

右に示したものが、本校が作成したリーフレットである。道徳教育を学校と家庭、地域が一体となって取り組めるようにと考えて作成した。このリーフレットは3月末に宝田町に配布した。

オ その他

地域ボランティアの方による環境整備が行われている。例えば、玄関・階段踊り場の生け花や花壇の手入れ、樹木の剪定等がある。また、「宝っ子見守り隊」による交通安全指導では、毎日登下校時の交通指導やパトロールも行われている。

さらに、地域ボランティアによる読み聞かせも行われている。



ありがとうカード



体験活動（稲刈り）



リーフレット

4 研究の成果

(1) 道徳教育の充実

① アンケートを分析して課題を明確にし、本校の児童に育てなければならない道徳性について共通理解を深めた。

② 赤堀先生の講演や県内外での研修を積み重ねることによって、学校の教育活動全体の中で、道徳性を培うというはっきりとした目的意識をもって指導にあたるようになった。

③ 道徳の授業において、ねらいをしっかりとって資料を分析することで、中心発問が考えられるようになってきた。また、補助資料等を工夫して使うことで児童の道徳的心情を高めることができるようになってきた。

(2) 温かい人間関係づくり

① なかよし集会で、6年生が中心となって準備をし、1・2年生の立場に立って遊びやルールを決めることができた。また、低・中学年の児童に感謝の気持ちが、高学年に低学年を気遣う気持ちが育ってきた。



読み聞かせ

② ありがとうカードによって、友達同士の関係がよくなり、仲よく助け合おうという心情が育ってきている。

③ みんなが気持ちよく暮らせるように、あいさつや約束・きまりを守ろうとする態度が育ってきている。

(3) 家庭・地域との連携

地域の人々との連携を通して、児童に地域の人々への尊敬の念が深まり、温かい気持ちや感謝の心が育ってきた。

5 今後の課題

以前から体験活動を行ってきたが、道徳的価値を意識した活動までには、十分に至っていなかった。そこで、今後は、児童の道徳性を育む体験活動を計画的に実施したい。そして、その中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かすことで、活動内容と主題を関連させ、指導の効果を高めたい。

また、校内授業研究を計画的に実施し、資料の分析や中心発問について研究してきたが、児童一人ひとりの実態を把握し指導に生かす手立てについては十分とはいえない。効果的な評価方法を探ることにより児童の変化を捉え、日常の指導や個別指導に生かすことで、心の成長を実感できるような手立てを研究していかななくてはならない。